

# 幼児の創造性に影響を及ぼすもの



阿 部 智 江

## 創造性とは何か

まず、次のなぞを解いてみよう。

「二人のインディアンが垣根に腰をおろしている。一人は大きく、一人は小さい。小さいインディアンは、大きいインディアンの息子であるが、大きいインディアンは、小さいほうの父親ではない。どうしてか」

この種々なぞあそびは、正答を知れば、なあーんだ、という気持ちになるが、ふつう、残念ながらひっかかりやすい。何故だろうか、考えてみよう。

この場合、「小さいインディアンは、大きいインディアンの息子である」という言葉は、「だから大きいインディアンのほうは父親であろう」という連想に導き、私たちはあるワクを持った考え

方にとらわれる。日常生活においても、物事を一定のワクにはめて考える場合が非常に多い。しかし今、このなぞあそびは、決まりきったワクをはめないでものごとを考えるほうがよい場合もある、ということを覚えてくれる。

こうした、いったんワクをはずして自由に考える——すなわち、一つの決まりきった答だけを出すのではなく、ありきたりでない答をいくつか考えてみる——という考え方は、一般に創造的思考と呼ばれているものである。

創造性とは、ありきたりの見方、考え方、やり方にとられないで、新しいものをつくり出していく能力である。創造性といっても、知的創造性、芸術的創造性など、いろいろな創造性が考えられるが、ここでは知的創造性に話題をしばって考えてみよう。知的創造性は、ふつう人が気づかないような、しかし大切な点に

関して問題提起をし、その問題をできるだけすっきりした形で解決していく働きと考えられるが、アメリカの心理学者ギルフォードは、次の六種の能力を知的創造性の因子としてあげている。

#### △問題提起▽

- ・問題への敏感性——問題点を発見する力、着眼点のよさなど。
- ・再定義する能力——問題を見直して、解決が直観されやすいような形にいかえていく能力。

#### △問題解決▽

- ・流暢（りゅうちょう）性——連想やアイデアをすらすらとたくさん生み出す能力。
- ・柔軟性——固定した見方、考え方でなく、条件に即応して、かまえをかえることができる能力。
- ・獨創性——ありきたりでない解決方法を生み出す能力。
- ・細密構成力——アイデアを具体化させるにあたって、項目をきめ、こまかい計画をたてる能力。

このようないろいろな要因が、ある重みをもって組みあわさり、創造的業績となると思われる。

#### 創造性の研究

優秀児といえば、これまで、知能指数の高い子と定義されてきた。しかし、創造性の問題が出てきて以来、知能と創造性の関係

を調べようとする研究が、数多く行なわれてきた。ここで、その代表的なもの、アメリカの心理学者ゲッゼルスとジャクソンの研究をみてみよう。

彼らは、シカゴの高校生四百余名に、知能テストと創造性テストを行なった。そして、特に知能だけ高いグループ（高知能群と名づける）と特に創造性が高いグループ（高創造群）とについて、比較、分析——学業成績、性格、教師の評価、物の考え方、家庭環境などについて——を行なった。その結果、高知能群と高創造群との間に、かなり差異があったことが報告されているが、興味あるものを拾ってみよう。特に面白いものは、家庭環境についての差異である。高知能群の生徒の家庭は、一般にインテリで母親も教養があり、育児や教育の方法についても自信がある。そして、自分の子どもやその友だち、学校に対して、批判的できびしい態度でのぞんでいる。が、それに反して、高創造群の家庭では、高知能群に比べて教養水準が低く、母親は、自分の子どもや友だちや学校のことなど、すべてに対して受け入れた態度を示して満足しており、外面的なことにはあまりこだわらない。その一例は、次に示すものではっきりするだろう。

それは、「親がのぞむ好ましい友だちのタイプ」に示される両群の母親たちの考え方の違いである。高知能群の子どもの母親は、「家族がよくて、お行儀がよく、そして勉強好きな子」を、自

分の子どもの友だちであってほしいと思っっている。一方、高創造群の母親は、とみると、「価値観が同じで、ものごとへの興味関心のある子、こせこせしないで大らかさのある子」を、子どもの友だちとして希望している。ここではつきり、母親たちの評価態度の違いが見られる。すなわち、高知能群の子どもの母親の場合、外面的なことが判断基準となっており、高創造群の子どもの母親については、もっと内面的なものをものごとの判断基準としているということである。なお、高創造群の子どもの親たちが示した「価値観が同じで、ものごとへの興味関心があり、こせこせしないで大らかさのある」ことを子どもに望む態度は、創造性を伸ばす上で、大切な、周囲の条件となるものであるが、ここではつきり指摘されていることは興味深い。

### 幼児の創造性についての研究

創造性の研究は、国の内外を問わず、今日的課題として注目をあびているが、その多くは中学生以上を対象とした研究であって、「幼児の創造性」についてのものは数少ない。(幼児の創造性については、本誌四十一年二月、三月号で、恩田氏が概観しておられるが、大いに参考となろう。)

幼児の場合に考えられる、小学生以上の子どもとの大きな違いは、

1 学校の勉強という強制的なものがないこと。

2 親(特に母親)との接触時間が多いこと。

3 自分で自分を方向づけるだけのものがまだなく、他人や種々の環境要因が、幼児に及ぼす影響が大きいことなどである。

となると、創造性についても、幼児の場合には、親の養育態度や家庭環境の及ぼす影響が非常に大きいと思われる。では、創造性のある子とない子とでは、そうした周りの要因はどう違ってくるであろうか。私は、幼児の創造性に影響を及ぼすものに興味と関心を持った。次に述べるのは、その研究の一端である。

それは、幼稚園年長組児を対象に行なわれた。特に幼児用に作成した創造性テストは次のようなものであった。

1 言語性テスト——幼児一人一人と面接の形で行なった。内容は次の通りである。

① 語の連想(「か」のつく言葉をできるだけたくさんいって

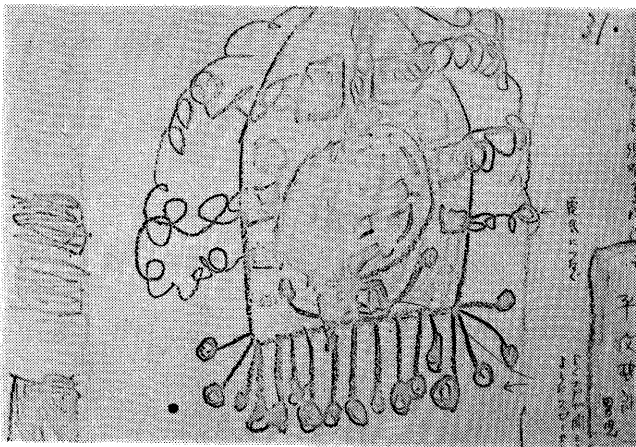
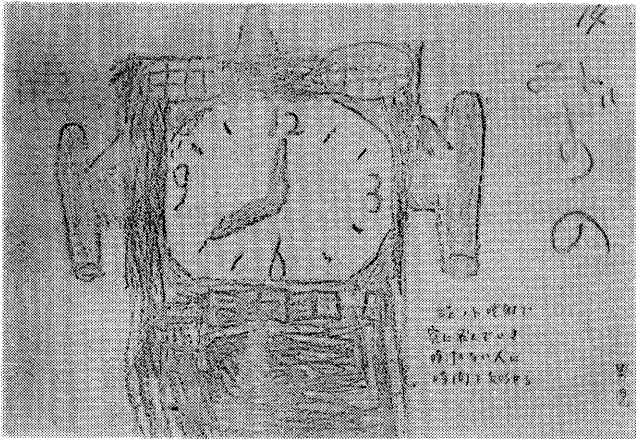
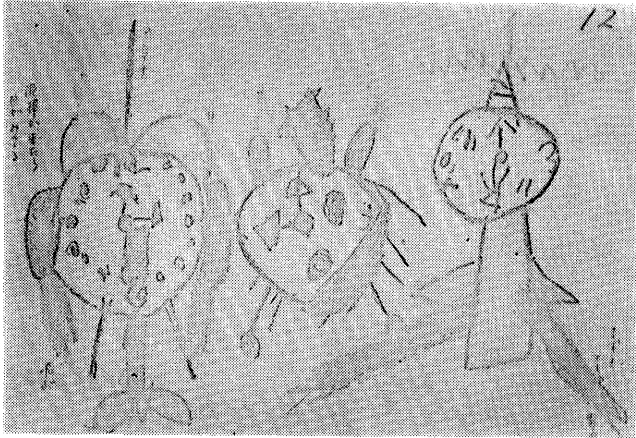
ごらんさい、など)

② 用途テスト(ボタン、竹の棒など)

③ 結果テスト(「もし動物も鳥も、人間の言葉をしゃべることもができるとしたらどうなると思う?」)

④ 話の展開(未完成の話を完成させる)

2 絵画テスト——言語性のものだけでなく、特に幼児の表現活動を通じて、創造性を測定するために用意されたテストで、



クレヨンと画用紙を与えて絵を描かせた。  
次の指示が与えられた。

「ここに時計の絵を描いてください。どんな時計でもいいのですよ。こんな時計があればいいな、こんな時計があればおもしろいな、と思うような時計をどんどん描いてください。本当にはない時計でもいいのですよ」

テストの評価は、言語性テストについては解答数を得点とし、  
絵画テストについては次の三点から評価した。

- 1 習慣にとられないで新鮮さがあるか。
- 2 のびのびと自由に描けているか。
- 3 アイディアが盛られているか。

表1 「幼児の創造性」との相関関係

環境要因	相関
知能	+
子どもの性格	+
協調性あり 融通性あり 積極性あり いいなりにならぬ	+
親ののぞむ子どものタイプ	+
女の子の女の子らしさ 男の子の男の子らしさ 明るい 社会性のある 落ち着きのある ユーモアのある 融通性 まじめさ	+
父親が大学卒である 母親が大学卒である しつけの際の干渉度が大きい	-

(5%レベルで+は正相関、-は負相関のみられたもの。符号のないものは有意の関係はみられなかった。)

この時計の絵で創造点の高かった子どもの絵を写真でごらんいただく。たとえば、手足があつて動きまわれる時計だといひのと、とか、お顔があつたり、飛んでいける時計だといひの、というふうには、私たち大人の考えでは想像もつかない、子どもならではの楽しい意味のある思いつきにまいったく驚ろかされる。

さて、こうして測定された幼児の創造性と、幼児をとりまく環境(家庭環境、親の養育態度、親の望む子どものタイプ、子どもの性格、教師の評価、など)との関係をみるために、相関をとつてみた。5%レベルで有意のものを表1に示す(+は正、-は負の相関関係を示し、符号のないものは、特に有意の関係がみられなかったものである)。この結果は、私たちにたくさんのおもしろいことを示していると思われる。幼児の創造性に影響を及ぼすも

のを探ってみよう。

まず、子どもの性格については、「融通性があつて、人のいいなりにならない」という性格の幼児が、比較的創造性のあることが示された。こうした性格の子どもは、ふつう、へりくつをいう、とか、なまいきだ、とかの損な評価を受けやすい。しかし、今こうして、創造性とかかなり関係があることを考える時、これから子どもを評価する時には、おとなしく何でもいわれたことをするいわゆる「いい子」だけではなく、「型にはまらない融通性のある考え方ができ、人のいいなりにならないで自分で行動できる」という性格も、考えに入れた方がいいようである。

次に、「親が子どもにどんな子どもになってほしいと願っているか」については、またおもしろい結果がでてゐる。それは、子どもにも「まじめさ」を望む気持ちが親に強いと、親子間の自然な気持ちの流れが妨げられて、創造性が伸びないのかもしれない。一方「女の子らしさ、男の子らしさ」という、幼児期における親の自然な期待の中にある幼児は、のびのびと創造性が伸ばされる可能性のあることがわかつた。このことは、幼児期においては、親が子どもに過剰な期待を寄せるよりは、子どもの発達段階に合った親の自然な気持ち——子どもらしく、あるがままに、自然に、という気持ち——が創造性を発揮させるもとなる、と考えられる。また、意外な結果であつたのは、父親が大学卒である家庭で、

子どもの創造性があまり高くなかったことであつた。一概にはいえないが、こうした家庭では、「こうした家庭では」という考え方が強くて、創造的な考え方や活動が抑えられている場合が多いのであろうか。同じように、「親の干渉度が大きい」家庭の子どもは、創造性がフルに發揮できる状態にはないようであつた。

こうして全体的にいえることは、幼児の周囲の環境——親や友だちや教師、またその他の人々——が、柔軟性のある物の考え方で、子どもを受け入れてやるのが、幼児の創造性の芽が豊かに伸び、やがて実を結ぶことに、大きな影響を及ぼすと考えられる。

### 創造性を育てるために

このごろでは、社会一般に、創造性についての認識も深まり、できるなら早くから、わが子にもその芽を植えつけてやりたい、と考える人が多くなつてきたようである。先に述べた私の小研究や、ゲッゼルスとジャクソンの研究にも示される通り、創造性は、個人的要因だけでなく、周囲の要因とも深い関係をもっている。では、どうしたら、創造性を育てていけるのであろうか。数十年先のこの社会は、さらに機械の占める場所も大きくなり、人々は、個性も生かされず機械化した、さらに複雑化した機構の中に、いやおうなく投げ込まれる運命にある。そうした複雑、かつ単調な社会の中で、力強く生き抜くためには、個性と創造性を豊かに

備えた人間である必要がある、と考えられる。幼児教育にたずさわる私たちは、こうした将来——今、幼児である者たちが、これから生きてゆかねばならない社会——を把握して、教育にあたる必要がある。一方、私たちは、幼児期における環境効果や教育効果の大きさを知っている。このように、周りの影響を受けやすい、また、物事への興味関心の強い幼児期の子どもたちの、大切な創造性をどうしたら育てていけるだろうか。

① 何もないところに創造性は出てこない。創造性を發揮させるもとなるのはそれまでの蓄積である。月ロケットを打ち上げることを考えつくのも、その基礎である数学や物理などの知識があればこそである。子どもに接する人々は、子どもの興味関心の芽を育て、必要な知識や考え方の吸収に協力してやりたいものである。

② 子どもの創造性を大切に育てるためには、いつも同じようなワクにはまった考え方をすることをやめさせ、ありきたりでない考えを大切にして励ましてやり、自分の才能や能力に自信を持たせることが大事である。子どもの奇技に見えるかもしれない独創的な行動も、ふつうの常識のワクでその芽をつみとることなく、のびのびとよい方向に伸ばしてやりたいものである。

③ もっと個性を伸ばそうとするくふうがなされてよい。子どもは一人一人ちがった能力をもっていること、それを一様に扱おうとしてはいけないことを充分に認識する必要がある。

④創造性を育てる教育は、創造性を受け入れる社会や集団の気風を育てる教育でもある。先入観や習慣的なやり方などから抜け出せない性格的なかさや、まちがいをしたら他人から笑われるという恐怖感など、創造性の妨げとなるものがいくつも考えられる。特に日本の社会にあつては、世間体を気にして、人がどう思うであろうか、どう見るであろうか、ということが、ものごとの判断基準となる場合が多い。これからの社会にあつては、集団の中の個人をもっと大切に、社会・集団の中に創造的な気風をつくり出したいものである。

こうして、創造性を育てる教育は、一人一人の子どもの創造性を高めるとともに、家庭・学校・集団・社会そのものの創造的気風を育てる方向に努力されねばならない。

(茅ヶ崎惠泉第二幼稚園・茅ヶ崎惠泉学園教育研究所)

この稿を書くにあたり、助言をいただいた東京大学の東洋助教授に感謝の意を表します。

参考文献

- ・ Getzels, J. W. E Jackson, P. W. *Creativity and Intelligence ; Explorations with Gifted Students.* Wiley, 1962.
- ・ ヲイケル・D・N (田中靖政・阿部智江訳)
- 「オートメーションに対する心理的適応」オートメーションと現代 誠信書房 1965, 179~190.
- ・ Tarance, E. P. *Guiding creative talent.* Prentice Hall, 1962.

第一六回 幼稚園教育実際指導研究会

日時 昭和四二年六月一(木)・二(金)・三(土) 日

午前 実際指導

お茶の水女子大学附属幼稚園職員一同

午後 協議会と講演

会場 お茶の水女子大学講堂

主催 お茶の水女子大学附属幼稚園内

幼児教育研究会

☆ ☆

幼児教育講習会

日時 昭和四二年七月二(土)——二五(火) 日

午前の部 九、〇〇——一二、〇〇

午後の部 一、〇〇——四、〇〇

会場 お茶の水女子大学講堂

主催 お茶の水女子大学附属幼稚園内

日本幼稚園協会